

調査の概要

□令和7年4月17日(木)実施

○調査内容

- ・小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒を対象
- ・教科に関する調査は、小学校・中学校共に国語、算数・数学、理科を出題
- ・主として「知識」に関する問題と、「活用」(知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力など)に関する問題が統一されて出題。また、生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査を実施

○参加状況

- ・参加学校数 10校 (小学校4校・中学校2校・義務教育学校4校)
- ・参加児童生徒数 255名 (児童135名・生徒120名)

令和7年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査の結果 (平均正答率)

		国語		算数・数学		理科 (中学校は 平均IRTスコア)		教科 平均	
小学校	根室市	59.0		43.0		50.0		50.7	
	(北海道との差)	△ 6.0	拡	△ 12.0	拡	△ 6.0		△ 8.0	拡
	(全国との差)	△ 7.8	拡	△ 15.0	拡	△ 7.1		△ 10.0	拡
	北海道	65.0		55.0		56.0		58.7	
	全 国	66.8		58.0		57.1		60.6	
中学校	根室市	50.0		31.0		447.0		40.5	
	(北海道との差)	△ 4.0	縮	△ 16.0	拡	△ 58.0		△ 10.0	縮
	(全国との差)	△ 4.3	縮	△ 17.3	拡	△ 56.0		△ 10.8	縮
	北海道	54.0		47.0		505.0		50.5	
	全 国	54.3		48.3		503.0		51.3	

※中学校は国語・数学
の平均値

<各項目の右側の欄は、前年度の差との比較 (拡: 拡大、縮: 縮小) >

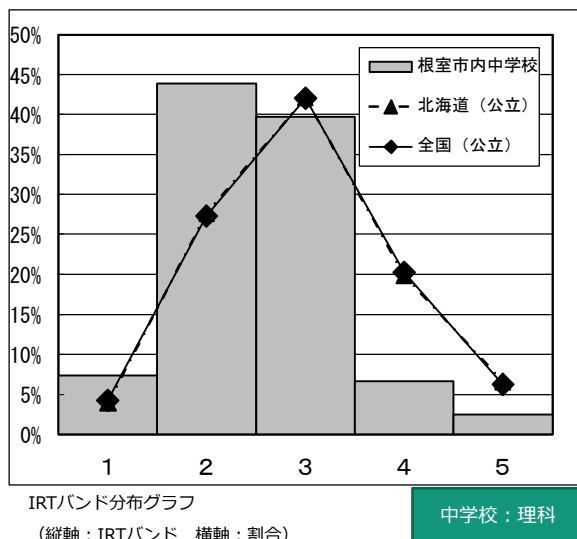
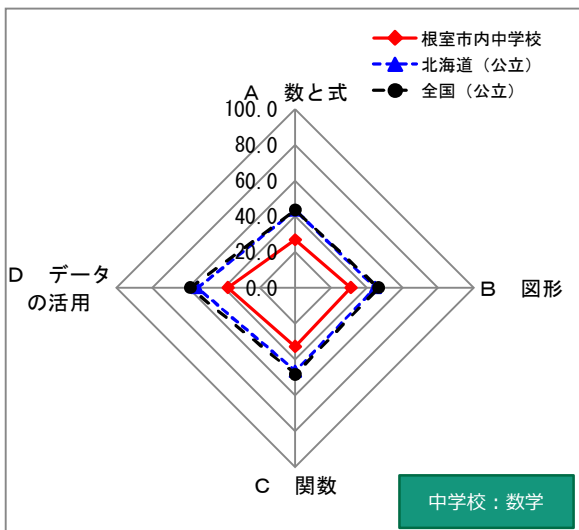
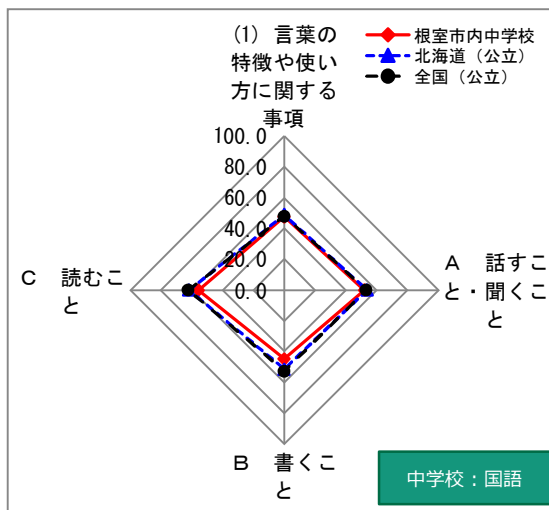
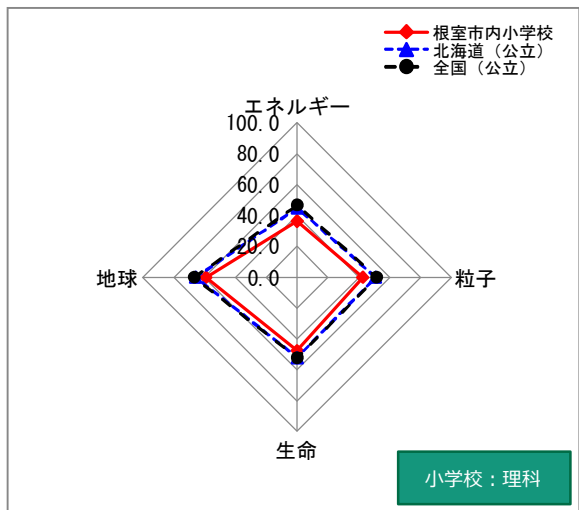
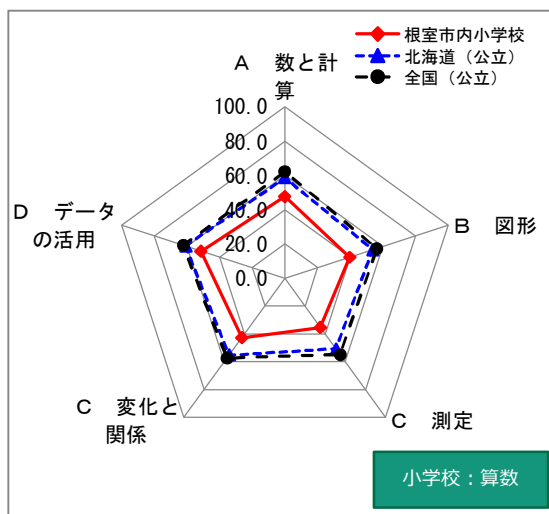
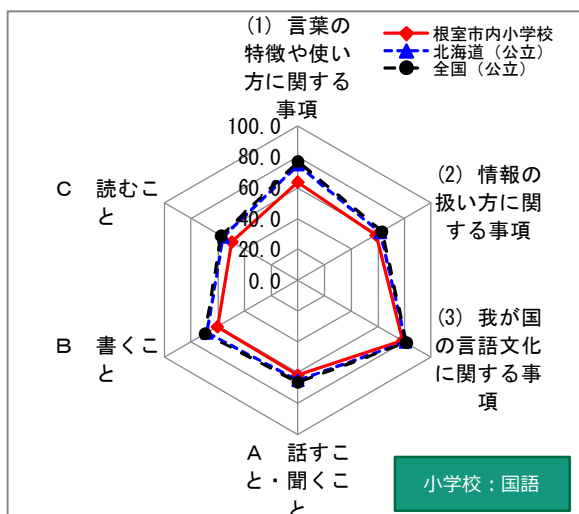
参考: 令和6年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査の結果 (平均正答率)

		国語		算数・数学				教科 平均	
小学校	根室市	63.0		50.0				56.5	
	(北海道との差)	△ 4.0	縮	△ 11.0	縮			△ 7.5	縮
	(全国との差)	△ 4.7	縮	△ 13.4	縮			△ 9.1	縮
	北海道	67.0		61.0				64.0	
	全 国	67.7		63.4				65.6	
中学校	根室市	48.0		38.0				43.0	
	(北海道との差)	△ 10.0	拡	△ 13.0	拡			△ 11.5	拡
	(全国との差)	△ 10.1	拡	△ 14.5	拡			△ 12.3	拡
	北海道	58.0		51.0				54.5	
	全 国	58.1		52.5				55.3	

<各項目の右側の欄は、前年度の差との比較 (拡: 拡大、縮: 縮小) >

領域別レーダーチャート

学習指導要領の領域の平均正答率の状況（中学校理科はIRTスコアで表示されるため、レーダーチャートに表示していません）



学力状況調査の結果から

(小学校)

- 全国及び全道との差について、国語・算数ともに前回（令和6年度）よりも差は広がっている。
- 平均正答率について、国語は、全道との差は△6.0ポイント、全国との差は△7.8ポイントとなっている。
算数は、全道との差は△12.0ポイント、全国との差は△15.0ポイントとなっている。
理科は、全道との差は△6.0ポイント、全国との差は△7.1ポイントとなっている。
- 学習指導要領の内容の平均正答率の状況を見ると、
国語においては、「言葉の特徴や使い方に関する事項」が、全国・全道と比較して落ち込んでいる。
算数においては、「測定」や「図形」などに苦手さがみられる。
理科においては、「エネルギー」を柱とする領域に落ち込みがみられる。

(中学校)

- 全国及び全道との差について、国語は前回（令和6年度）よりも、差は縮まり、数学は差が広がっている。
- 平均正答率について、国語は、全道との差は△4.0ポイント、全国との差は△4.3ポイントとなっている。
数学は、全道との差は△16.0ポイント、全国との差は△17.3ポイントとなっている。
- 学習指導要領の内容の平均正答率の状況を見ると、
国語においては、特に「書くこと」が全国・全道と比べて若干落ち込んでいる。
数学においては、「数と式」「データの活用」などに苦手さがみられる。
- 理科においては、IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表されている。
スコアから、全道との差は△58、全国との差は△56となっている。

結果と今後の取り組みに向けて

- 昨年度と比較すると、中学校・義務教育学校後期では国語科で全国及び全道との差が縮まり、小学校・義務教育学校前期では、国語、数学で全国及び全道との差が広がる結果となりました。
- 小学校・義務教育学校前期の国語では「言葉の特徴や使い方に関する事項」が低く出ています。学んだことを自らの言葉や知識を用いて表現すること、そしてそれを繰り返すことで、さらに学びたいと思える授業改善が必要です。
- 中学校・義務教育学校後期の国語は「書くこと」において若干低い結果となりました。単に文字を書くだけでなく、思考力、表現力、構成力、推敲力など、文章を構成し、伝えるための総合的な力を身に付ける授業を展開していく必要があります。
- 算数・数学では、「選択式」や「短答式」と比べて、思考力や判断力、表現力を問う「記述式」の問題の平均正答率が低くなっています。小学校・中学校・義務教育学校ともに、問題文を正確に理解し、自分の考えを分かりやすく記述したり、それを他人に説明する取組を増やしていく授業改善が必要です。
- 小学校・義務教育学校前期の理科では、「思考・判断・表現」の平均正答率が全道・全国より低く出ています。学習内容を普段の生活と関連付ける活動を授業の中で意識的に設定していくことが必要です。

今後も、児童生徒の興味・関心に基づく多様な学習ニーズに答える教育活動を展開しながら、子どもたち一人一人が意欲を持って学習に取り組めるよう授業改善を進めます。

将来の根拠を担う子どもたちが、予測困難な社会を生き抜く力を育んでいくために、学校・家庭・地域及び行政が、それぞれの役割を明確にし、連携を取り合いながら取組を進め、さらなる学力向上に向け、児童生徒の学習状況の改善に努めてまいります。